

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400967
法人名	有限会社 楽舎
事業所名	宇賀の杜 楽舎
所在地 (電話番号)	出雲市奥宇賀町23番地1 (電話) 0853-63-7373

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(20年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	9.75 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧野内科医院、わかば歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自然の大切さ」にこだわりを持ち、木の温もりを十分に活かしたこのホームは、「一瞬の笑顔を求めて」との理念の基、利用者を第一に考えた支援がなされている。あわせて、管理者、職員ともに、常にホームの質向上を目指し、個々のスキルアップも含め、日々の業務に取り組んでいる。
 前回評価時と比べ、利用者、職員ともに笑顔が多く確認でき、ホーム全体で「明るさ」が増したことを感じたとともに、利用者個々が思い思いに過ごす場面を多く見かけるなど、落ち着いた雰囲気というものも感じ取ることができた。
 また、家族を含めたイベントを開催したことで、より意見を聴取しやすくなった環境がつけられ、支援面や運営面など、家族と職員が共に取り組んでいる部分が確認できるなど、地域連携とともに、チームケアというものも大切にされたケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、居室の配慮について改善課題として挙げられていたが、その後ホームとしても、居室の重要性を協議し、取り組んだ結果、更なる馴染みの品の持ち込みや装飾等、利用者それぞれの思いを大切にした居室がつけられていた。他、改善課題としてあげられなかった部分についても、前回評価を基とし、より質の向上を目指した取り組みがなされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめ、職員全員が評価を実施する意義を理解しており、事業所の質をより良くしていくとする姿勢が見られる。またこれまでの外部評価の改善を求められた項目に対しては、早急に協議を行うなど、ホームの更なる質の向上を念頭に置き、日々のケアを行うなど積極的に取り組む姿勢が伺える。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政関係、地域住民、入居者及び家族等をメンバーとし、2か月に1回定期的に開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。会議でも、活発な議論が行われており、ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時の声かけや通信誌、運営推進会議など、家族等に遠慮なく意見を言ってもらえる体制を作っている。また、家族含めたイベントを開催したことにより、家族等との関係も、さらに良くなり、多くの意見を受け入れている。家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム主催の祭りをはじめ、幼稚園や小学校との交流会、地域の催し物の参加等、地域住民と交流することに努めている。あわせて、毎朝、小学生の登校時には、見守り隊として利用者が参加するなど、法人の理念に基づくことも含め、地域との連携については、活発に展開している。今後も、地区老人会への参加、地元小学校との交流会、地域の福祉フェスティバルへの参加等、より連携を図ろうとする積極的な姿勢がみられる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「地域の中に開かれたホーム・・・」を基とし、ホーム独自でも、地域連携を含めた年間目標(理念)、月間目標を設定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念や年度ごとの方針は、職員会議での話し合いや、協議する場面を設けており、その決定も含め、掲示や唱和等、職員間での共有化を図る仕組みができています。また、諸会議の場で具現化に向けての話し合いもなされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベントや運動会、他施設を含めた文化祭への参加など、地域との関わりを大切にし、取り組んでいる。あわせて、自治会にも加入し、緊急時の対応を依頼するなど、地域のつきあいについて、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘のあった事項に関しては、改善に向けての取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表や家族代表をはじめ地域代表や行政職員等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。会議では、現況報告や問題点の検討等が行われ、また、自治会等からの意見も多く出されており、この会議をサービス向上に活かしている。		

島根県 グループホーム宇賀の杜・楽舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出雲市グループホーム連絡会を含め、市役所担当者との協議する機会を多く持つなど、市町村との連携についても図られている。その結果、気軽に相談できる関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にホーム便りを製作し、近況報告に加え、利用者の担当職員のメッセージも添え送られている。家族の来訪時には時間を設け報告や相談を行い、また、遠方の家族には電話で連絡を行うなど、それぞれに合った対応がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡や家族来訪の際に時間を設け、意見を聴取する取り組みがなされている。また、家族懇談会を開催し、より多くの意見を聴取しようとするなど、積極的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解している。何よりも職員の交代が少なく、顔なじみの職員でケア提供がなされていることは評価できる点である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には、原則全職員が参加するようにしており、外部研修へも積極的に参加するようにしている。職員会議での復命(文書報告)研修も実施されており、職員個々のスキルアップを目指した取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、研修等へ積極的に参加するとともに、サービスの質の向上を目指している。また、連絡会を通して職員の交流も含めた、ホームの質の向上に向けた積極的な取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、体験利用など馴染みの関係をつくった上でサービスを開始する体制は取られてはいるものの、様々な事由により、サービス開始前に利用者の自宅を訪問しての情報収集がなされていないケースが多い。	○	いきなりサービス提供ありきではなく、場合によっては見学や、自宅へスタッフが何度か行ったり、遊びにきてもらったりし、「馴染みの関係」を作ってからサービス提供が望まれ、加えて、「地域の中での生活」や「生活の継続性」を考えたとき、利用者の送ってきた生活を捉えておくことは何よりも必要であり、自宅を訪問しての情報収集が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体のゆっくりとした時間の中で、穏やかに暖かい生活が送れるよう、全職員が意識統一を図りケア提供がなされている。訪問調査日のケアや、職員のヒアリングからもそのことが窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うよう努めている。 本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での利用者の言動等を観察することで、意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に計画が作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをはじめ、状況の変化に応じて随時見直しを行うなど現状に即した計画が作成されている。また、毎月開催される職員ミーティングでも、各利用者の状況が確認され、これを見直しに活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの活用をはじめ、病院受診の付き添いなど、それぞれの状況に合わせ支援されている。本人、家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続してかかりつけ医とし、密に連絡をとっている。緊急対応をはじめ、往診依頼など入居者がより良い医療を受けられるよう、かかりつけ医と事業所との関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアについては、ホームとして出来ること出来ないことをきちんと家族に伝え、主治医とも協議し、医療機関の協力を得ながら、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるよう支援・取り組みがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に利用者の誇りや尊厳について話し合い、職員の意識向上を図っている。また、入居者それぞれの生活歴や性格等の把握がなされ、個々を尊重した声掛け等を行うなど対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、利用者一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケア提供が見受けられた。職員のヒアリングからも、職員の都合にではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせたケアの有りよう、柔軟な対応が窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等、利用者とともにしており、それぞれの役割を見出しているとともに、職員も同じテーブルに着き、同じメニューの食事をとっている。和やかな雰囲気作りにも取り組まれ、調査時も、笑顔の多い食事風景が確認できた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴や夜間入浴等、時間の制限はなく、利用者それぞれの希望に沿った支援がなされている。また入浴拒否傾向にある利用者に対しても、利用者の行動や気分を見ながら、適切な対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、個々の能力に応じ得意なことやできることを活かす場を作り、ホーム内での役割を果たし、生活に楽しみと張り合いが持てるよう支援を行っている。また、昔からの地域行事に参加したりするなど、外出の支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルも作成され、避難経路等職員全体で再確認するなど、取り組まれている。また、自治会に加入し、地域住民や派出所等への協力依頼を行うなど、取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は必要に応じてチェックし把握している。また、利用者それぞれの咀嚼能力に合わせて食事形態も柔軟に対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木目を基調とした温かさを感じる造りとなっており、使い込まれているテーブル、椅子の設置、畳スペースを設けるなど、心地よく過ごせる空間作りがなされている。訪問時、利用者それぞれが、共用空間で思い思いに過ごしている風景が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の継続性」を重視し、居室には昔の写真や趣味用品、家庭で使用していた家具などが置かれ、家庭的な雰囲気を有しており、利用者それぞれに合った居室環境作りがなされている。		